

## H29. 6. 20 東淀川区区政会議 第1回 防犯・防災部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成29年6月20日(火)午後7時から午後9時 東淀川区役所4階401会議室

出席者 防犯・防災部会委員7名、他部会委員1名

議題1 平成28年度東淀川区運営方針自己評価

議題2 将来ビジョン（たたき台）及び平成30年度取り組みの方向性について

議題3 今後の取り組みの方向性について（ワークショップ）

### 4-1 防災① 課題と5年後あるべき姿

- 若い人材不足。人材の固定化（担い手・訓練参加者）。高齢化し5年後はより深刻な問題。訓練等に関心ない多くの方・若い人の防災意識の向上が必要
- エリア間の協議がない。町会単位の小さい単位での訓練も必要。
- 地域と小中学校の連携不足、区内の地域・大学・高校・大学・企業・行政の連携・合同訓練が必要。区合同協議会設置や連絡網確立が必要。大経大はたくさんの方が避難できる。
- 避難場所の周知・啓発（その時居る場所の近くに行く）、有効な避難場所の指定（古い家屋があるところは倒壊して通れなくなるかも。経路の検証が必要）。避難した後の生活（夏休みに一泊研修）。防災意識は高まっている。避難経路・避難場所を明確に知らせる。
- 備蓄を増やすことが必要。

・避難経路は町会ごとに作っているところもある。

### 4-1 防災② そのために今できること

- 人・人材：高齢者の訓練でなく高校・大学・商店街など若い人に参加してもらいたい。
- 協働・連携：区内大学・高校・企業・商店街との協働訓練や協働イベント（地域行事として合同訓練するなど）。福祉施設との訓練強化。声かけすれば協力してもらえる。行政にも連携してもらえればより連携しやすい。大経大は地域と共有できメインの拠点になる。区一斉訓練などをすれば商店街・企業も参加しやすいのでは。
- 啓発：災害時における危機感・有効な避難経路・避難場所の啓発。備蓄の増。
- 意識向上：災害時の倒壊危険個所の合同点検。災害時の役割認識。避難所開設訓練。地域内での防災ワークショップの開催（予算を使う有識者による講演会よりも皆で話し合う）や他の催物の際の啓発など、皆の意識を高める。訓練をもっと増やし内容周知していけば関心も高まるのでは。
- その他：避難場所をスマホで自動配信。企業から備蓄物の協賛をもらう。防災用品購入は町会ごとに予算を（区役所支援も）。地域での地図作成。備蓄。

・地域単位での全体訓練などまずは地域に持ち帰って啓発を。全地域一斉の訓練をしている区もある

#### 4-2 防犯① 5年後あるべき姿

- 子どもが周りを気にせず安心して遊べるようなまちづくり。
- 東淀川区の印象をよくして、住みたいまちにする。
- 地域の結びつきがあるまち。皆が見守り皆がつながっているとすれば犯罪者も近づかない。清掃などをはじめとして近所のつながりのある姿があればいい。
- ごみに放火されることを防ぐためにも、町会単位で清掃をする。
- 女性が狙われるような真っ暗なところをつくらない。
- 自転車専用道路が整備され（ハード面）、走行や放置などのマナー啓発を強化（ソフト面）、安全に自転車が走れるまちづくり。

#### 4-2 防犯② そのために今できること

- つながりづくり：誰もが参加しやすい行事をする。新しい人には町会のメリットなどを伝えるなど、地活協や町会の活動を知れば、ボランティアでも夜回りでもしてみようかというつながりができるのでは。防犯に関心ある正義感ある若い人はたくさんいるのでは。
- 情報発信：様々な団体がSNSをしているが、地域で一つにまとめるべき。クリックすればその地域の区・地活の役割が出てくるようにすればわかりやすい。日中会えない人もSNSでつながれるのでは。
- 意識向上：街路灯・門灯で明るくしたり、女性は暗い所を通らない・ブザーを持つなど、意識向上や啓発が必要。危険な箇所を隠すのではなく、周知して皆で気をつけたり、防犯灯や防犯カメラをつけて対策していくことも必要。

- 地域での人と人とのつながりがやはり大事。人材育成やSNSの活用による情報発信に関して十分でなかった。意識の啓発にも検討して取り組んでいきたい。

#### 議題4 市政改革プラン2.0（区政編）（素案）

#### 議題5 今後の区政会議スケジュール